

停電時・復電時の運転について

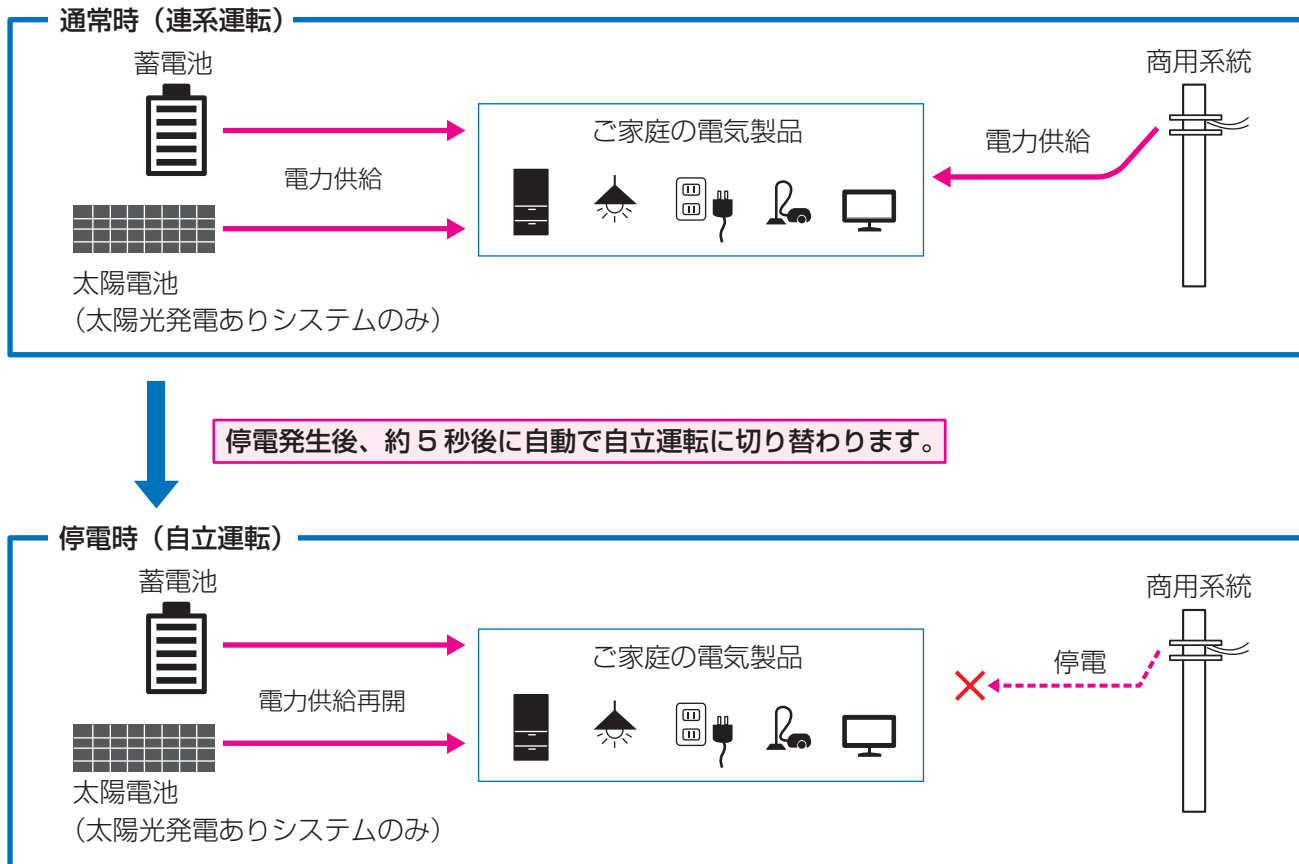
停電時（自立運転への自動切り替え）

停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、自動で連系運転から自立運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。

ゲートウェイを操作し、メインメニューの「ウンテンジョウタイ」で「ジリツ」と表示されているか確認してください。（⇒ 34）

- （システム A-2）ソーラーパワーコンディショナの自立運転への切り替えについては、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をお読みください。

連系運転から自立運転への自動切り替えイメージ



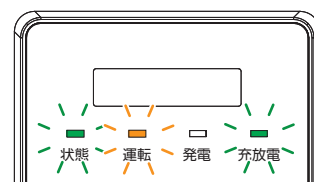
システムの運転

- 停電時の電力供給元（蓄電池ユニット／太陽電池）と電力供給先（使用できる電気製品）はお使いのシステムによって異なります。29 ページをお読みください。
- 停電時に使用できる電気製品を事前に確認しておいてください。（⇒ 21, 23）

◆ 補足情報

ゲートウェイについて

- 自立運転中は、ゲートウェイの状態ランプが緑色、運転ランプが橙色に点灯します。充放電ランプは充電中は橙色、放電中は緑色に点灯します。



停電時・復電時の運転について（つづき）

蓄電池について

- 蓄電池ユニットの過放電防止のため、停電時は規定の蓄電残量になると放電を停止します。その後、蓄電残量が規定の量まで充電されると放電を再開します。蓄電池が放電停止 / 再開を行う蓄電残量は以下の通りです。

蓄電池 16.4kWh 蓄電池 9.8kWh 蓄電池 12.7kWh

蓄電残量 6% で放電を停止、蓄電残量が「システム **A** -2」は 7% 以上、「システム **B**、**C**」は 16% 以上まで充電されると、放電を再開

蓄電池 6.5kWh 蓄電池 6.3kWh

蓄電残量 9% で放電を停止、蓄電残量が「システム **A** -2」は 10% 以上、「システム **B**、**C**」は 19% 以上まで充電されると、放電を再開

- 「SOC カゲン」(⇒ 50) を 10% 以下に設定すると、停電時に電気をすぐに使用できない場合があります。

停電時に使用する場合のご注意

◆ システム **A** -1、**A** -2、**B**（特定負荷用分電盤ありシステム）の場合

- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントには、突然停止しても安全性に問題がない電気製品を接続してください。下記の電気製品は特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続しないでください。
 - すべての医療機器
 - 灯油やガスを用いる冷暖房機器やヒータを持つ機器
 - デスクトップパソコンなどのバッテリーを持たない情報機器
 - その他、途中で止まると生命や財産に損害を及ぼす機器
- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続している電気製品の合計消費電力は、2000VA以下(AC 100V で最大 20A 以下) になるようにしてください。
- 蓄電池ユニットの電池残量や太陽光発電の発電量（システム **A** -2、**B**）などにより 2000VA の電力が供給されない場合があります。
- 電気製品によっては定格のワット数 (W) 以上の電力 (VA) を消費するものがあります。そのため、定格のワット数 (W) が「2000」以下であっても使えない場合があります。
- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続する電気製品を安定してお使いいただくため、また停電時により長い時間お使いいただくため、接続する電気製品の合計電力 (W) は 500W 程度に抑えることをお勧めします。
- 停電時に万一、特定負荷用コンセントに接続した電気製品が使えない場合は、特定負荷用コンセントから外してください。
- 停電時に万一、特定負荷用分電盤に接続した電気製品が使えない場合は、電気製品が接続されている分岐ブレーカを「オフ」にしてください。
- 蓄電池の電池残量が残り少なく、放電できない場合は、表示部に「C9-3.0」（放電停止 SOC 到達）が表示されます。蓄電池の電池残量が 0% になると、表示部に「C9-1.0」（蓄電残量低下（停電時））が表示され、約 30 分後にシステムの電源が切れ、待機状態になります。（パワーセーブモード）
- システムの電源が切れた場合は、復電後に再起動します。長期に渡ってシステムの電源が切れた場合は、再起動後に日時設定画面が表示されます。（⇒ 59）日時を設定してください。

◆システム C（全負荷用分電盤ありシステム）の場合

- 全負荷用分電盤－主分電盤では、同時に使用する電気製品の合計消費電力が、最大片相 2000VA、両相 4000VA を超えないようにしてください。最大消費電力の合計が上記を超える場合は、使用する電気製品を減らしてください。
- 蓄電池ユニットの電池残量や太陽光発電の発電量などにより 4000VA の電力が供給されない場合があります。
- 電気製品によっては定格のワット数 (W) 以上の電力 (VA) を消費するものがあります。そのため、定格のワット数 (W) が「4000」以下であっても使えない場合があります。
- 蓄電池の電池残量が残り少なく、放電できない場合は、表示部に「C9-3.0」（放電停止 SOC 到達）が表示されます。蓄電池の電池残量が 0% になると、表示部に「C9-1.0」（蓄電残量低下（停電時））が表示され、約 30 分後にシステムの電源が切れ、待機状態になります。（パワーセーブモード）
- システムの電源が切れた場合は、復電後に再起動します。長期に渡ってシステムの電源が切れた場合は、再起動後に日時設定画面が表示されます。（⇒ 59）日時を設定してください。

自立運転を停止させるには

40 ページに記載している「運転停止／運転再開のしかた」の操作で停止させてください。

- 自立運転の停止中に復電した場合は、自動で連系運転に切り替わりません。再度「運転停止／運転再開のしかた」（⇒ 40）の操作で運転を再開し、連系運転に切り替えてください。

自立運転が自動的に停止した場合は

掃除機や冷蔵庫など、電流が急激に流れる機器を使用すると、保護機能が働いて運転が停止することがあります。運転が停止した場合は、特定負荷用分電盤または全負荷用分電盤－主分電盤に接続している機器の一部を停止し、消費電力を少なくしてください。

- (システム A -2)
 - － ソーラーパワーコンディショナの運転が停止した場合は、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をお読みになり、運転を再開させてください。
 - － 「テイデンジモード」の設定が「タイヨウコウキュウデン」もしくは「ジドウ」に設定している場合（⇒ 54）は、「テイデンジジュウデン」の設定を小さな値に変更してください。（⇒ 55）

上記を実行すると数分後に自動で自立運転を再開します。

自動で自立運転を再開しない場合は、40 ページに記載している「運転停止／運転再開のしかた」の操作で一旦停止させて、再度運転させてください。